

平成29年度

「利島村教育委員会の教育に関する事務の管理及び執行の
状況の点検及び評価」に係わる報告書

- 報告書の趣旨説明
- 「利島村教育委員会の教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価」
- 教育に関する学識経験者の意見

平成30年3月31日
利島村教育委員会

平成29年度

教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価

利島村教育委員会

1 趣 旨

- ・ 利島村教育委員会は、毎年、主要な施策や事務事業の取組状況について、点検及び評価を行い、課題や方向性を明らかにすることにより、効果的な教育行政の一層の推進を図る。
- ・ また、点検及び評価の結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表することにより、村民への説明責任を果たし、村民に開かれた教育行政を推進する。

※ 参考（根拠法令）

- ・ 「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」

（教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等）

第二十七条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務（前条第一項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務（同条第四項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。）の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

- 2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

2 実 施 方 法

- （1）毎年度策定する「利島村教育委員会教育目標」を対象とし、点検及び評価を行う。
- （2）点検及び評価は、前年度の施策・事業の進捗状況を総括するとともに、課題や今後の取組の方向性を示すものとし、毎年一回実施する。
- （3）施策・事業の進捗状況等を取りまとめ、学識経験者の意見を聴取した上で、教育委員会において点検及び評価を行う。
- （4）教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るため、「点検・評価に関する有識者」を置く。
 - ① 「点検・評価に関する有識者」は、教育に関し学識経験を有する者の中から教育委員会が委嘱する。
 - ② 「点検・評価に関する有識者」の任期は3年とする。（任期の延長・短縮は妨げない。）
- （5）教育委員会において、点検及び評価を行った後、その結果をとりまとめた報告書を利島村議会へ提出する。また、報告書は公表するものとする。

平成29年度

教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価の実施

利島村教育委員会

※ 評価基準

達成率	100%~75%	74%~50%	49%~25%	24%~0%
評語	A	B	C	D

1 教育委員会の活動

(1) 教育委員会の会議の運営

評価	評価根拠
B	・教育委員会会議において、利島の教育について活発に議論を交わすことが出来た。

(2) 教育委員会の会議公開

評価	評価根拠
B	・教育委員会毎月の定例会は常に公開としている。

(3) 教育委員会と村長との連携

評価	評価根拠
B	・教育施策については常に確認を行い、連携を図った。特に文化財保護について文化財保護審議会を計4回開催し、村長と連携を深めた。

(4) 教育委員の学校支援（学校訪問、学校施設点検）

評価	評価根拠
B	・行事等において不定期ではあるが教育委員は学校を訪れた。今年度より教育委員の学校視察を行い、学校長とも意見交換を行った。定例の教育委員会では、様々な観点から学校教育について議論した。今後、教育委員の学校視察は定着させたいと考えている。

2 教育委員会が管理・執行する事務

(1) 教育行政の運営に関する基本方針を定めること

評価	評価根拠
A	・地方教育行政の組織及び運営に関する法律に規定されている教育の機会均等、教育水準の維持向上及び地域の実情に応じた教育の振興は図られている。昨年度＜地方教育行政の組織及び運営に関する法律＞の一部改正に基づき、『利島村教育大綱』を策定した。教育大綱、教育委員会目標に則り、基本方針を検討した。

(2) 教育委員会規則・規程の制定・改廃すること

評 価	評価根拠
B	・過去の教育委員会規則・規定の見直しは、必要に応じて行っていく。

(3) 教育予算等の議会の議決を経る議案の原案を決定すること

評 価	評価根拠
A	・30年度予算については、利島の教育の充実発展に資するべく、教育委員会として原案を作成した。特に次年度に向け、新たに文化財保護に向け予算要望した。 ・学校体育館等の施設のバリアフリー化を計画的に進める。次年度は、郷土資料館入り口、及び体育館入り口にスロープ、手すり、学校玄関にスロープを設けるべく予算原案を作成した。今後計画的にバリアフリー化を進めていく。

(4) 利島村奨学金制度の事務に関すること

評 価	評価根拠
A	・奨学金事務は滞りなく行っている。 ・利島村奨学金制度を一部改正した。

(5) 離島高校生就学支援事業の事務に関すること

評 価	評価根拠
A	・24年度立ち上げた制度である。中学卒業時に保護者に対して広報している。利島出身の高校生は全員利用している。

3 教育委員会が管理・執行を教育長に委任する事務

(1) 利島村大綱、及び教育委員会教育目標の制定・改廃

評 価	評価根拠
A	・昨年度策定した教育大綱に則り、利島村教育委員会教育目標は学校の児童・生徒のみならず、島民全体の人としてあるべき姿を想定して制定している。教育目標を中期、長期目標ととらえ、今年度の施策を具体的に表示している。

(2) 人権尊重教育の推進

評 価	評価根拠
A	<ul style="list-style-type: none">・児童・生徒が人権の花の栽培を行っている。・毎年、人権作文に応募している。・利島中学校が今年度、東京都道徳教育推進拠点校として、人権教育及び道徳教育を推進した。

(3) 社会性を育む教育の推進

評 価	評価根拠
B	<ul style="list-style-type: none">・児童生徒が社会性を育む行事（島外学習、中学生海外ホームステイ事業、その他、社会教育分野の活動等）に対して経費の100パーセント補助金を交付している。・檜原村と友好村の盟約を結び、今後共交流を深めていく。・今年度、利尻島、豊島区等、他地区の小学生とも交流をし、社会性を育む上で意義のある体験を行った。

(4) 児童・生徒の他地区との交流

評 価	評価根拠
B	<ul style="list-style-type: none">・多摩・島しょ広域連携活動助成事業（利島サマースクール）（ジュニアスキー教室）を夏期、冬季に行い、利島村と檜原村の小中学生が交流を行った。今後、保護者に十分な理解を求め、さらに多くの児童・生徒の参加を促していく。また、今年度は中学生海外ホームステイ事業を実施し、海外の子供とも交流をした。・利尻島、豊島区の小学生とも交流の機会を設定した。

4 学校教育

(1) 人権尊重教育の推進

評 価	評価根拠
A	<ul style="list-style-type: none">・いじめ、差別に関する取組（生活アンケート、個別相談等）の実施と、日常生活における他人との関わり方（挨拶、礼儀等）を重点とする指導を行った。・人権月間活動として、人権に関する図書紹介し人権作文や標語づくりに取り組ませた。 <p>達成度85%</p>

(2) 個に応じた学習指導

評 価	評価根拠
A	<ul style="list-style-type: none">・資格検定の取得に向けて、全校体制で放課後学習教室や学力カルテを活用した学習支援活動の実施、中学校におけるテスト前対策として、個別学力補充活動を実施した。・TT 授業において、必要に応じて授業中の個別指導を行うことができた。また、長期休業中、及び学期中の放課後に全教員で補習を実施した。 95%

(3) 自尊・他尊感情を育て、豊かな心をはぐくむ道德教育

評 価	評価根拠
A	<ul style="list-style-type: none">・「特別な教科 道德」の実施に向けて、道德授業の在り方については島しょ研修、道德評価については校内研修を実施し、全校体制で道德教育の充実に努めた。・行事や諸活動を通して異学年と意見交換や支援・協力すること（時にはトラブルの経験）から、相互を理解し認め合うことの大切さを学んだ。 達成度90%

(4) 健康の保持・体力の増進を図る教育活動

評 価	評価根拠
B	<ul style="list-style-type: none">・保健や食育について、授業や広報（保健だより、給食だより）による指導を通して、児童生徒の健康や体づくりへの関心を高めることができた。・体育授業や体育的行事を通して、基礎体力の向上に取り組んだ。体力調査などの結果では個人差がみられ、学校全体として体力の増進は達成できていない。 達成度70%

(5) 小中一貫教育の継続

評 価	評価根拠
A	<ul style="list-style-type: none">・小中教員の協働による学習指導が定着化し、一層の充実がみられた。・九年間の学習指導計画の作成に向けて、月1回の年間指導計画作業日を設定し、一部教科において小中教員による教科部会を実施できた。 達成度90%

(6) 生徒理解を基本とした生活指導の充実

評 価	評価根拠
A	<ul style="list-style-type: none">・職員会議（月1回）での児童生徒情報交換を通して、定期的に児童生徒の生活指導上の問題について情報共有している。また、個々の問題に関しては関係教員やSCと連携して、本人及び家庭と対応している。・生活指導部を主体として、問題が発生する前に日頃の生活での乱れに気を付けて、事前指導や初期対応に努めている。 達成度90%

(7) 9年間を見通したキャリア教育の推進

評 価	評価根拠
A	<ul style="list-style-type: none">・島外学習や地域における職業体験・職場訪問などを実施し、児童生徒の職業観・勤労観の醸成を図ると共に、キャリア教育の4能力（人間関係形成・情報活用・将来設計・意思決定）の発達段階的向上に努めた。・地域人材バンクの創設にあたり、登録の働きかけをした。教育活動を活性化させ充実させるために、地域の人材を有効に活用していきたい。 達成度75%

(8) 環境教育の推進

評 価	評価根拠
B	<ul style="list-style-type: none">・身近にある環境問題に考えさせる場面や実践する場面の設定ができなかった。来年度は故郷教育の自然や環境に関する学習に取り入れていく。 達成度60%

(9) 家庭・地域に開かれた学校

評 価	評価根拠
A	<ul style="list-style-type: none">・運動会、文化祭、ロードレース、展覧会等に、保護者や地域の方々が参加いただき、広く連携が深められた。・年3回の学校公開週間、年5回の学校公開日を設定し、教育活動を参観できる機会を提供した。・小学低学年が社協訪問を行った。・今年度から月1回の学校だよりに加え、英語通信・道徳通信・図書だよりも村全体に配布し、教育活動をより具体的に知ってもらうようにした。・年3回の学校運営協議会で学校状況について情報共有する一方で、地域代表として協議会委員から学校への地域の声を聞き、学校運営に生かした。 達成度95%

(10) 学校組織力の強化

評 価	評価根拠
A	<ul style="list-style-type: none">・毎朝の管理職打ち合わせ、週 1 回の管理職会議において、管理職間の報・連・相が十分に行えた。これにより副校長の経営パートナーとしての役割・責任への自覚が高まり、校務の処理・対応が円滑に行えた。・教員一人一人の能力を生かせる業務に取り組み、実績（成果）を挙げることで自信と意欲が高まり、組織貢献力が育成できた。・各主任は分掌・委員会の運営において、自ら率先しながら指示・調整しながら円滑に進めた。 達成度 85%

(11) 小・中教員全員への兼務発令

評 価	評価根拠
A	<ul style="list-style-type: none">・教科指導での連携だけではなく、行事や諸活動、更に教科補教においても、小学校教員と中学校教員の連携・協力の体制が確立した。 達成度 90%

(12) 教員としての資質向上のため P D C A の徹底活用と積極的な研修への参加

評 価	評価根拠
A	<ul style="list-style-type: none">・島しょ研修、実践事例研修、そして校内研修を通して、新学習指導要領における新しい教育（アクティブ・ラーニング、道徳の教科化、カリキュラム・マネジメントなど）を積極的に学ぶことで、教員としての資質向上が図られた。・校内研修に基づく研修会や専門性向上の研修会に積極的に参加させ、研修内容を校内にて伝達研修方式で還元させた。 達成度 95%

(13) スクールカウンセラーの活用した児童・生徒・教員の健全な心の維持

評 価	評価根拠
B	<ul style="list-style-type: none">・全児童生徒対象の個人面接を 2 回実施し、個々の悩みや不安等を把握し、担任と共に児童生徒への対応に生かした。・SC からの情報提供や助言が不十分であった。 達成度 60%

(14) 基礎学力の向上を図るための方策と成果。

評 価	評価根拠
B	<ul style="list-style-type: none">・各教科で「授業改善プラン」を作成し、児童性の実態に応じた指導の徹底を図った。・各教科で副教材やドリル等を用いて反復学習を取り入れた。しかし、東京ベースックドリルの活用を推進したが、十分に活用するに至らなかった。 達成度70%

5 社会教育

(1) 芸術文化事業の実施

評 価	評価根拠
B	<ul style="list-style-type: none">・東京都島しょ芸術文化事業として、マジック、パントマイムの団体の講演を行った。来年度も東京都に要望し、村民の芸術文化の振興を図っていきたい。

(2) 家庭への教育支援推進事業

評 価	評価根拠
A	<ul style="list-style-type: none">・就学援助・利島村奨学金貸付・離島高校生就学支援事業の執行等、学校保護者負担の軽減に努めている。

(3) 文化財保護の充実

評 価	評価根拠
B	<ul style="list-style-type: none">・文化財保護審議会を4回開催した。審議会の答申を踏まえ、次年度以降、遺跡、史跡の整備を進める。また、今後、利島の伝統芸能についても復活させ、将来にわたって継承していく道筋を作る。

(4) 地域教育力の活性化

評 価	評価根拠
A	<ul style="list-style-type: none">・ふるさと体験学習として、地域の協力で<えび網体験>を行った。また、村を挙げての防災訓練、大島警察署の指導の下で交通安全教室等を実施した。・放課後子供教室等において、学校外の子供の指導に当たっている。また、それらの団体に対し、教育委員会として補助金を出し支援している。来年度はその輪を広げたいと考えている。・村民の活動の場を支援すべく各同好会へ活動補助金を出している。また教育委員会だより等を活用し、それぞれの活動の活性化を図っていきたい。

(5) 子供虐待の防止に関する活動の推進

評 価	評価根拠
A	・利島には村全体で子供の面倒を見るという慣習は利島の良さであり、村民の理解、協力を得て続けていきたい。子供への虐待はないものと認識している。

6 放課後児童クラブ（学童）について

(1) 放課後児童クラブの運営

評 価	評価根拠
A	・一年を通して円滑に運営できた。 ・学習（宿題）指導が定着し、児童が意欲的に取り組んでいる。 ・教育委員会に移管した初年度であるが、特段混乱もなく順調に運営できた。 ・保護者との連携もよくとれている。

(2) 通所児童の状況

評 価	評価根拠
A	・主に小学校低学年児童が参加し、活動している。 ・学習と遊びのメリハリをつけ、喜々として活動している。 ・参加児童の少ない年末・年始の活動については、今後の検討課題である。

7 その他

(1) 施設・設備

評 価	評価根拠
B	・テニスコートの修繕は今年度実施した。 ・遺跡の整備を東京都と協議し、今後一層進めていく。 ・パソコンの入れ替えを行い、情報教育等の充実を図っている。

「平成 29 年度利島村教育委員会 教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価」に対する意見

帝京大学文学部心理学科 助教

新谷 和代

利島村教育委員会が策定した全35項目の教育目標に対する自己評価は、A 評価が21項目、B 評価が14項目、C 評価が0項目という結果でした。昨年度より A 評価と B 評価の数はあまり変わりませんが、C 評価がなくなりましたので、概ね平成29年度の教育委員会の施策・事業は、順調であったと判断してよいと思われます。

以下、主な項目の自己評価およびその評価根拠について、簡単にコメントを述べさせていただきます。

1. 教育委員会の活動

全項目が B 評価となりましたので、更なる活動を期待したいところです。

- ・(1)(2)教育委員会の会議の運営については、利島の教育について活発に議論を交わすことができたとのことで、大変よいことだと思います。
- ・(3)教育委員会と村長の連携については、特に文化財保護審議会を計 4 回開催され、流鏝馬や大石山遺跡、小正月の行事などの伝統文化などについて審議をされたのは、大変有意義なことだと思います。今年度は住民対話会も開催されましたが、住民が伝統文化の保存や継承に対して意識を高めることができた、よい機会でした。大石山遺跡については、遺跡から今も多く出土しており、利島が歴史的に神聖な場所であったことが推測され、また遺跡は高台にあることから、素晴らしい眺望がのぞめ、島全体に植えられた樺の樹木も鑑賞することができます。従ってこの遺跡は、報告書のように観光スポットとして大いに生かす場所と考えられますので、今後更なる整備を進めていくことが望ましいと思われます。
- ・(4)教育委員の学校訪問と意見交換については、様々な観点から学校教育について議論をされたとのことで、大変よいことだと思います。地域から選ばれる教育委員は、学校と地域を結ぶ大事な役割を持っており、相互の連携を更にしっかりとしたものとするために、学校視察や情報交換など、教育委員の今後の一層の活動が望まれます。

2. 教育委員会が管理・執行する事務

- ・(1)教育行政の運営に関する基本方針を定めることについては、昨年度策定された利島村教育大綱に則り、教育施策を検討されたとのことですので、今後も教育行政が滞りなく行われることを期待します。
- ・(3)教育予算等の議会の議決を経る議案の原案を決定することに関しては、文化財の保護に向けて予算要望をされ、また学校体育館等の施設のバリアフリー化の計画を立てられ、予算原案を作成されたとのことですが、村民すべての方々が学校に関わり学校を盛り立てていくためには、バリアフリーは欠かせないことだと思います。迅速なご対応をお進めいただきたくお願いします。
- ・(5)離島高校生就学支援事業の事務に関することについては、離島出身の高校生 2 名全員が高校に進学され、支援金を利用されていることは、大いに結構なことだと思います。今後とも、生徒の希望や能力に応じて様々な進路選択ができ、またそれに応じた支援を円滑に実施していただきたく、お願い致します。

3. 教育委員会が管理・執行を教育長に委任する事務

- ・(2)人権尊重教育の推進については、利島村小中学校は昨年度に引き続き、東京都道徳教育推進拠点校として人権教育及び道徳教育普及を推進されたとのことでした。学校だより12月号にも掲載されている児童・生徒による栽培活動は、学校の芝生や式花を育てるといふ他者のための活動でもあり、体験から人権を学ぶことができるよい活動だと思います。また同号には、人権デーにあわせて人権に関する読書の機会を設け、人権標語や人権作文を作成して校内に展示をする活動が掲載されており、活発に人権教育に取り組まれていることが伺われました。来年度も引き続き、取り組みをお願いします。
- ・(4)児童・生徒の他地区との交流については、多摩・島しょ広域連携活動助成事業の一環として、今年度も利島サマースクール、ジュニアスキー教室が行われ、利島村の子どもたちが檜原村の子どもたちと交流を行ったとのことでした。また今年度は、中学生海外ホームステイ事業の一環で、オーストラリアに中学2年生が派遣され、有意義な体験をしたとのことですが、子どもたちが視野を広めるよい機会になったのではないかと思います。11月には離島経済新聞社の主催で、北海道利尻島の6年生児童4名が来島し、お互いの島のことを紹介しあう交流が行われたとのことでした。種類の異なる花が咲き、種類の異なる魚が獲れるなど、環境の異なる暮らしを想像し、他者を理解する力が養われたよい機会だったと思います。今後も機会があれば、続けてほしい活動であると思いました。

4. 学校教育

- ・(2)個に応じた学習指導については、資格検定の取得に向けて、全校体制で放課後学習教室や学力カルテを活用した学習支援活動を実施されている他、今年度はSkypeを利用して台湾の子どもたちと交流し、有意義な時間を持ったとのことでした。昨年度に続き「A」評価となったことはもったいなことだと思います。
- ・(3)自尊・他尊感情を育て、豊かな心をはぐくむ道徳教育については、様々な教育の現場を通して、相互を理解し認め合うことの大切さを学ばせているということですが、郷土資料館の工事に入った業者さんから、「利島の子どもたちは、会う子会う子がみな挨拶をしてくれる。日本の子どものお手本です。」との話があったとのこと。他者に対して心がこもった挨拶をすることは、自尊・他尊感情を育む大切な実践教育の一つであり、このように道徳教育が日常の生活の中にしっかりと定着していることは素晴らしいことです。これからもなお一層、このような教育に力を注がれますことを望みます。
- ・(4)健康の保持・体力の増進を図る教育活動については、今年も恒例のロードレース大会が開催され、子どもたち同士が声援しあい、お互いをたたえ合う場面があったとのこと、大変よいことでした。また、建設関係の方による道路の配慮、沿道の温かい励まし、PTAからの炊き出しなど、島民の皆さんが、児童生徒の力走を様々な形で支援して下さったことは素晴らしいことでした。更に今年度からは、「頑張れ利島っ子！東京オリンピック・パラリンピック聖火リレー完走プロジェクト」の取り組みが始まったとのこと。鹿児島から東京までの約2400kmを、全校児童生徒が協力して校庭のトラック120mを走り込み、3年間で完走するという大きなプロジェクトですが、子どもたちがよく頑張っているという報告がありました。これからの2年間の取り組みで、子どもたちの体力作りに対する関心や、実際の体力の向上が益々期待される、よい活動だと思います。

- ・(5)小中一貫教育の継続については、家庭科や体育などの授業の他、国語や算数などの基幹科目についても、小中学校の先生方が互いに交流しながら授業をされているとのこと。このように小中の先生方の交流や情報交換がどんどん活発になっていくことが、小中9年間を見通した学習指導に繋がると思います。
- ・(7)9年間を見通したキャリア教育の推進では、地域人材バンクを創設し、募集を行ったとのこと。教育活動の活性化には、前述の小中の先生方の交流や情報交換はもちろんのこと、地域の方々のお力が欠かせません。ぜひ多くの人材が登録され、有効に活用されていってほしいと思います。
- ・(12)教員としての資質向上のための PDCA の徹底活用と積極的な研修への参加については、新学習指導要領における新しい教育として、アクティブ・ラーニング導入が推進されております。子どもたちが授業前に自ら学び、授業内でグループ・ディスカッションやグループ・ワークを行って更にお互いに学び合うこの授業形式については、今年度は先生方が研修会へ積極的に参加され、校内でも他の先生方へ伝達研究方式で還元されたとのことですが、小中学校の連携により手厚い教育が可能な利島の小中学校では、実施する環境が整っておりますので、なるべく早期の導入のご検討をお願いします。

5. 社会教育

- ・(1)芸術文化事業の実施については、東京都島しょ芸術文化事業として、「劇団笑太夢マジック」が来島し、マジックやパントマイムが披露される講演が行われ、約 80 名の観覧があったとのことでした。子どもたちも含めると島民の 3 分の 1 がこの講演に参加したことになり、関心の高さが伺われました。子どもたちも実際にマジックを教えてもらい、来場者に披露し、大きな拍手をいただいたとのことですので、学校と地域の交流のよい機会にもなったと思いました。
- ・(3)文化財保護の充実については、東京都への働きかけが実り、今年度は大石山遺跡で新しい看板が立ったとのことでした。これからも上るための道づくりや定期的な草刈りなど、資金面と人材面の両方からの支援が必要です。少しずつでも着実に、整備が進んで行くことを願います。

6. 放課後児童クラブ(学童)について

- ・(1)放課後児童クラブの運営については、今年度より運営が教育委員会に移管していますが、円滑に運営されており、保護者とも連携がよく取れているとのこと、大変結構なことだと思います。

7. その他

- ・(1)施設・設備については、テニスコートの修繕、パソコンの入れ替えなど、東京都と協議をしながら進められていると感じました。今後とも、継続的な取り組みをお願いします。

平成29年度

利島村教育委員会 教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価
「点検・評価に関する」意見

東京都多摩市青少年問題協議会落合地区委員会 会長
東京都多摩市立落合中学校 教育連携コーディネーター
主任児童委員

榊 つきみ

教育委員会の自己評価は、全35項目中、達成率75%以上のA評価が21項目、50%以上のB評価が14項目、C評価及びD評価はなしという結果でした。このことから、全体としては適正な管理・執行が行われていると判断して良いと思われます。

以下、示された主な項目の「点検・評価」に関して、簡単にコメントを加えます。

1 教育委員会の活動

「(1) 教育委員会の会議の運営」では、定例教育委員会がほぼ規定通り実施でき、真剣で活発な議論がなされたということで結構なことだと思います。改めまして、昨年の大成功の記念式典、大変お疲れ様でした。

2、教育委員会が管理・執行する事務

「(3) 教育予算等の議会の議決を経る議案の原案を決定すること」では、一つ目に文化財保護が挙げられていました。遺跡の保護や伝統文化の継承が、村民の心をより深く繋いでいくことと思いました。二つ目に学校体育館等のバリアフリー化が挙げられていました。学校だよりに掲載されている数々の行事は、老若男女が集う村挙げてのイベント。一層のバリアフリー化は、大変喜ばしいことだと思いました。

4、学校教育

「(1) 人権尊重教育の推進」「(2) 個に応じた学習指導」「(3) 自尊・他尊感情を育て、豊かな心をはぐくむ道徳教育」「(5) 小中一貫教育の継続」「(6) 生徒理解を基本とした生活指導の充実」は高い達成度を示しています。「明日の子ども達への指導をどうするか」と小中の先生方がコミュニケーションを図り、情報を共有する。児童・生徒一人ひとりに光が当てられる小規模校ならではの強みと言えますが、学校だよりを拝見すると先生方の本気度が伝わってきます。さらに「東京都の学力調査において、全ての児童・生徒がその平均値を上回る結果」だった旨、報告されていました。先生方の本気度と協力体制の素晴らしい成果だと思いました。

「(7) 9年間を見通したキャリア教育の推進」では地域人材バンク創設の取組みがいよいよスタートするとのこと。隠れた人材が楽しみです。

「(8) 環境教育の推進」は、現代社会において大変重要な課題です。故郷教育から始め、最後は意識を地球規模にまで高めて行かねばなりません。子どもたちへの指導をお願いします。

「(9) 家庭・地域に開かれた学校」は地域とともに歩む学校です。様々な行事が地域住民とともに行われており、まさに学校が地域の核となっています。地域の歓声が聞こえて来そうな学校だよりからは、子ども達の様子だけでなく、先生方の思いもしっかり伝わってきます。

「(11) 小・中教員への兼務命令」「(12) 教員としての資質向上のためP D C Aの徹底活用と積極的な研修への参加」「(13) スクールカウンセラーの活用した児童・生徒・教員の健全な心の維持」から、先生方の資質向上と、小・中の先生方の連携強化および情報交換により、スクールカウンセラー以上に子供に寄り添えた。そのようにも言えるのではないのでしょうか。

5、社会教育

「(3) 文化財保護の充実」、温故知新と言うように、歴史や伝統を学ぶことは未来を開くことに繋がります。4回開催された文化財保護審議会では大変素晴らしい話し合いができたことが答申から伺えました。

カラー版学校だよりを、本当に楽しく読ませていただきました。その中に出てきた「利島音頭」。生活の様々な場面で輪になってみんなで踊る島の歌なのですね。輪の中に入りたくなりました。